

2024年 けいはんなリフレッシュウオーク2 第9回目 B班

11月22日 王寺の里散策

担当 4班広報

定刻9時50分 王寺駅中央口改札前に集合します。
ガイドさんの紹介の後、各班ごとにスタートします。

先ず、南の葛下川（かつげがわ）の堤防へ。爽やかな秋風の中を歩きます。



平成29年にこの葛下川が氾濫したそうで、昭和57年の氾濫では王寺駅を始め付近1400戸以上が床上浸水したそうです。下流の大和川の合流点からの逆流が大きな原因だったようです。今は、この堤防コースでマラソン大会が行われているそうです。

次の孝霊天皇陵を目指します。

上り坂がきついです、その峠の頂きあたりから、孝霊天皇陵への階段です。



桃太郎の話の元となった四道将軍「吉備津彦命」の父であり、三輪山伝説、箸墓伝説のある神憑りする媛「倭迹迹日百襲媛命」の父でもある第七代孝霊天皇片丘馬坂陵です。

麓の王寺小学校は廃校となり、今取り壊しの工事中ですが、片岡皇寺（放光寺）跡が含まれているとのこと。そのうち発掘調査がなされますので、話題になるかも知れません皆さん気にしておいて下さい、とガイドさんの言です。

次は片岡神社です。



「新抄格勅符抄」の大同元年（806年）に名が出ている
そうで、延喜式神名帳（927年）に片岡坐神社と記載さ
れているそうです。
明治時代に他の二つの神社も合祀し、現在は王寺全体の
総鎮守として祀られています。

境内に「無患子」の木があり、実は羽子板の羽根に利用されていたとのことで、落ちていた探しましたが、残念ながらありませんでした。

次は放光寺です。



聖徳太子が建立したと伝えられる古刹で、元は現解体中の小学校の敷地にあったと伝えられる寺です。御本尊は十一面観音坐像です。

次は達磨寺です。



片岡山伝説

推古21年聖徳太子が片岡山を通りかかったところ、疲れ果てた異人に出会った。太子はその異人に食物と自分の衣服を与えた。翌日様子を見に行かせたところ、息絶えていたので、丁重に葬った。しばらくして墓を見に行かせると、死体は消えて、衣服だけが置かれていた。

これを知った聖徳太子はあの異人は達磨大師の生まれ変わりに相違ないといい、聖徳太子自ら刻んだ達磨像を祀ったのが達磨寺の始まりだそうです。

寺院としての形態の整うのは鎌倉時代以降のようです。

境内には、問答石（達磨石・太子石）、達磨寺中興記石塔（重要文化財）、片岡春利の墓、松永久秀の墓、薬師石、三つの古墳、愛犬「雪丸像」、と見どころ沢山の寺でした。

方丈は片方は入母屋造り、片方は切妻造りの珍しい建物で1667年の建立です。



方丈の枯山水の庭



聖徳太子の愛犬「雪丸」
王寺町の「ゆるキャラ」になっています



「和（やわらぎ）の鐘」

聖徳太子の「和を以って貴しとなす」から

王寺駅前へ戻って、12時40分ガイドさんに御礼の挨拶をして、解散いたしました。

秋晴れの中、快適なウォーキングでした。